

聖誕節 説教

神様のプレゼント

＜ルカによる福音書2:8～14＞

韓世一牧師（神戸教会）



クリスマスが近づくと、多くの人々が大きく喜びます。その中でも子供たちが一番喜ぶでしょう。なぜなら、プレゼントがあるからです。時には大人たちは自分の子供が欲しいプレゼントを購入するために1ヶ月前から準備する方もいると聞きました。

皆様は今回のクリスマスにもこのようなプレゼントを期待していますか？ところが、神様も私たちにとても大切なプレゼントを与えて下さいました。

今日の本文はイエス様のご誕生の知らせを伝えています。ベツレヘム野原で牧者たちが羊の群れを守る時、突然周囲が明るくなり、主の天使が現れました。そして、そこにいる羊飼いたちが恐れると、「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。」そして、その天使は続けて「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。」

当時、このユダヤの地はローマ帝国の植民地でした。ローマの軍人たちの抑圧的な統治の下で苦しんでいたユダヤ民族は、自分たちをローマの統治から救って下さるメシアをひたすら待っていました。ところが、そのように待っていたその方がついにこの世に生まれたということです。天使が牧者たちに「あなたがたは、布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」と伝えました。しかし、じっと聞いてみると理解できない話でした。

どのような貧しい人でも、生まれたばかりの赤ちゃんを飼い葉桶に寝かせる親はいないからです。ところが天使はこれがまさにキリストのご誕生のしるしであると言いました。

この牧者たちが従順な心で自分の羊を野原に置いてお生まれになられたイエス様に敬拜するためにその場を離れようとする時、空から賛美が響き渡りました。

「いと高きところには栄光、神にあれ、／地には平和、御心に適う人にあれ。」このように平和の王としてお生まれになられたイエス様を大きく喜んでいました。

私たちは今日、この天使たちの賛美を通じて、この地に平和の王として来られたイエス様のお姿を忘れてはなりません。イエス様は御自分のすべての姿を通して、この地に平和の王として来られたことを私たちに示されました。

第一、私たちの欲望を捨てなければなりません。

この欲望は私たちの中の平和を無くします。当時、ローマ人はユダヤ人を徴税人として立て、同じ民族に多くの税金を徴収させました。また、民の痛みと苦しみを慰めるべき祭司たちも、ユダヤの民を慰めることなく、自分たちの富を蓄積するのに忙しかったのです。しかし、イエス様は違いました。イエス様は天地を創

造されたお方であり、全能者の独り子でしたが、最も貧しい人として生きていました。イエス様はすべてのことができる能力がありました、ご自分の欲望を捨てました。パウロは「あなたがたは、わたしたちの主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は豊かであったのに、あなたがたのために貧しくなられた。それは、主の貧しさによって、あなたがたが豊かになるためだったのです。」イエス様は欲望に従って生きませんでしたし、また貧しい人々を豊かにするために自ら貧しくなられました。

第二、最後まで愛することで平和を成し遂げます。

最後まで愛さずには平和はありません。欲望を捨てることも重要ですが、また重要なことは、最後まで愛することです。他の人が私にどうしたかは関係なく、最後まで愛することです。

これは人間としてはほとんど不可能なことです。ところが、イエス様はそのように最後まで愛し、私たちに模範を見せて下さいました。イエス様の十字架の前で弟子たちは皆逃げてしましました。命をかけてイエス様を離れないと誓ったペトロは、ある幼い女中の前で、私はイエスを知らないとその名前を呪いながらイエス様を否定しました。

また、ユダは銀三十を受け取り、祭司長たちにイエス様を売り渡しました。そのすべての裏切りをイエス様はすでに知っておられましたが、相変わらず彼らを愛し祝福しました。

普通なら憎むしか出来ませんが、イエス様は違いました。彼らを哀れみ、足を洗って下さり相変わらず愛されました。

また、復活されたイエス様は、自分を裏切って逃げた弟子たちを訪ねて叱らず、彼らは赦し、「私の羊を飼いなさい」と主の貴重な使命を託しました。そして、弟子たちを導く聖霊を送って下さると約束されました。弟子たちはイエス様を裏切ったが、最後まで愛したイエス様、その方こそ真の平和の王です。

有名な神学者は「神の愛は対象を探すのではなく、対象を創造する。」と言われました。私たちは神様の前で愛されるに値するから愛されるのではありません。まだ、私たちが神様と敵であった時にも、イエス様は愛を持って喜んで十字架の道を歩まれました。私たちは愛されて愛するのではなく、イエス様のように嫌われても愛することです。これこそがイエス様が示して下さった愛の模範です。

クリスマスは平和の王に礼拝する日です。この日の一番大きなプレゼントは、平和の王として来られたイエス様です。それでイエス様が来られたクリスマスは全人類の恵まれた日であり、2千年前の喜びが今日まで続いています。平和の王としてこの地に来られたイエス様の御誕生の知らせは、世の中にどんな知らせよりも嬉しいプレゼントです。



ネパール人と合同聖餐礼拝 神戸、大阪、京都と合同夏季学校も

京都南部教会では、2023年4月からネパールのクリスチヤンの方たちを受け入れ、毎週土曜日に礼拝堂を貸している。現在、40人くらいが集まって礼拝をしている。ネパールのクリスチヤンたちは、日本全国で地域ごとに家庭や公園で集まったり、様々な教団の教会を借りて礼拝をしており、全国的にとても増えている。もちろん、クリスチヤンたちもいるが、求道者も大勢いる。ネパール人たちにとっては、1つの大事なコミュニティの場所になっているようだ。

2024年の夏は初めて、神戸、大阪、京都のネパールの子どもたちと京都南部教会の教会学校の子どもたちが合同で夏季学校を行った。文化も言葉も食事も違う。最初どうなるかと心配されたが、普段は場所が離れているために、ネパールの子どもたちが共に集まって礼拝や分級をすることができないため、ZOOMで教会



学校の礼拝をしているようだ。ネパールの子どもたちにとっては、肌と肌を触れて会える場所があるだけで大喜びだった。言葉は、ネパールの子どもたちはネパール語、みんなで話すときは日本語、礼拝や讃美は英語、日本語、韓国語、いろんな言葉が飛び交かった。

今年の10月の世界聖餐主日礼拝は神戸、大阪、京都のネパール教会と京都南部教会合同で聖餐礼拝を挙げた。違いはあっても、私たちは主にあって1つの家族であることを、聖餐の恵みを共に分かち合うことで確認した。お昼の愛餐は、京都南部教会からはピビンバ、ネパール教会からはチキンビリヤニを提供し、豊かな交わりとなった。

教会の貸し出し当初からネパールのクリスチヤンたちは、神様が導き遣わしてくださったこの日本の地において、宣教のために何かをしたい!しなければならないという強い願いと使命が私たちには与えられていると語っている。主の体なる教会として、地域宣教をぜひともやりましょう!と共にずっと祈り続けている。そのために、2026年は新たな宣教のヴィジョンを立て、実行していく予定だ。

国や文化や言葉の壁を越えて、神の家族が一つとなり、神の国がますます広がって行くことを切に願ってやまない。

(報告:新井由貴牧師)



アシュラム祈祷修養会を開催 主題—「静まって主と出会う」時を持つ

11月2日午後3時から大阪教会にて、「静まって主と出会う」という主題で関西地方会の伝道部主催のアシュラム祈祷修養会が行われた。参加人数は62名であった。

朴時永牧師の司会、森克之長老の開会祈祷で始められた。関聖連の讃美は「善き力にわれかこまれて」「静まって知れ」の2曲であったが全会衆を巻き込んでささげられないので、その場が主の恵みに満たされた。李明信牧師がとりなしの祈りを導いた後に、伝道部長の朴栄子牧師が講師紹介をした。

講師の松本雅弘牧師(CISKクリスチヤン・ライフ成長研究会主事)が静まりの時について説明した。御言葉を読んで、思いめぐらし、口ずさむこと、祈ること、沈黙することなどの教えがあり、約30分の黙想時間が与えられた。そしてヨハネ福音書5章2~9節の御言葉を提示され、各自が神のみ前に出て実践した。その後に三人がグループとなり、それぞれが主からの恵みを分かち合う時間をもつた。

よく知られた御言葉であったが、分かち合うことによって豊かな時間となり、20分があつという間に過ぎた。その後に、松本牧師がこの箇所から受けた体験的なメッセージが語られた。

ベトサダの池が今の教会の姿であり、そして今も主イエスが一人ひとりに「なおりたいのか」と声をかけ「起き上がりなさい。床を担いで歩きなさい」と語りかけ共におられる主の力を味わえるような時間となつた。

最後に伝道部長の朴牧師が感謝の挨拶をした後に、来年には是非一泊でのアシュラムを行いたいとの希望を語って集会を終えた。

(報告:全聖三)



第34回修養会開催 「これからの私たちの使命」主題で



西部地方教会女性連合会は、10月23日~24日神戸ハーバーランド温泉万葉俱楽部で、「これからの私たちの使命」と題して第34回修養会を開催した。41名(8教会)が参加した。

開会礼拝は尹豊子副会長の司会で、西部地方会長の韓世一牧師(神戸教会)から「主が共におられる者」(創世記39:1~3)と題する説教があった。

引き続いて、李鍾河牧師(名古屋グレース トゥルース チャーチ元老牧師)を講師に迎えて、「何のために生きているのか」と題する講義があった。私たちは、神さまから弱さも含めてさまざまな賜物を与えられており、それを用いて伝道すること、人をとる漁師になることがクリスチヤンの使命であるということが伝えられた。やがて朽ちていく肉体のためだけに一生懸命になるのではなく、みことばのパンを毎日しっかり食べる大切さにあらためて気付かされた。講演後は、梁律子会長のリードで讃美と祈りの時間をもつた。夕食後には、すぐそばの神戸港で打ち上げられる花火を楽しんだ。

閉会礼拝は梁律子会長の司会で、李重載牧師(川西教会)から「イエスと共に死に、イエスと共に生きる人生」(ガラテヤ2:20)と題する説教があった。

修養会参加者はみな、それぞれが神さまから与えられた使命を行なうべく、顔を輝かせながら帰路についた。

(報告:崔美恵子)



みことばと讃美のフェスティバル 11教会のチームが神に栄光を捧げる

2025年9月14日（第2主）午後3時より、大阪教会にて関西地方教会女性連合会主催の第31回「みことばと讃美のフェスティバル」が、11教会・約260名の参加を得て開催された。

第1部は、康玲子社会部長の司会のもとで開会礼拝がささげられた。讃美歌94番とともに讃美し、司会者の祈祷の後、関西地方会会长金鍾權牧師（平野教会）による「愛って何なの」という題目の説教がなされた。続いて、慎静子会計の献金感謝祈祷をもって第1部を終えた。

第2部は、関西女性会柳綏美会長の挨拶に続き、李奈々宣教師長の司会で「みことばと讃美のフェスティバル」が進行された。関西地方教会女性会の11チームが参加し、讃美をもって神に栄光をささげ、祝福と恵みに満ちた時間を過ごした。

審査の間、今年は外部から公演者を招く代わりに、関西女性会委員による美顔体操と讃美が行われ、参加者からはとても楽しくて良かったとの声が多く寄せられた。尹聖澤審査委員長の総評後、各賞の発表があり、賞状と賞品が授与された。

今年は特に老若男女問わず、出演を広く呼びかけ、女性会の未組織教会からも楽しく参加していただき恵みを受けた。また新たな試として、「フェスティバル賞」「讃美賞」「みことば賞」以外の賞には順位をつけず、関西地方教会の登録順に授与した。今後は、賞の与え方についても話し合いを続けていきたい。また、枚岡教会からは教会でのコロナ感染により出場辞退の連絡があり、とても残念に思った。来年はより多くの教会がともに集い、讃美をささげる恵みの時間になることを願う。最後に、関西地方会会长金鍾權牧師の閉会祈祷をもって、第31回「みことばと讃美のフェスティバル」のすべてのプログラムが恵みのうちに終了した。

（報告：千末仙）



ルツ結婚相談所

お気軽にお電話ください。心を尽くして御成婚までお世話します。お電話をお待ちしています。

代表 崔貞淑（神戸東部教会名誉勧士、仲人歴30年）

〒659-0012 芦屋市朝日ヶ丘町10-35-504

090-3429-9707

2026年度 牧師・伝道師考試および宣教師加入考試

「2026年度牧師・伝道師考試、および宣教師加入考試」を以下のように実施します。考試の詳細については総会のウェブサイト (<http://kccj.jp>) のメニュー「部署」→「神學考試委員会」をご参照ください。（2025年12月末頃更新されます）。

●日 時①筆記試験&面接：2026年3月9日(月)午前10時～
・10:00～10:30 オリエンテーション
・10:30～17:00 筆記試験（終了後、順次面接）
②説教試験&面接：2026年3月24日(火)※筆記試験合格者のみ



信徒の集いを神戸教会で開催 全国に先駆けた大会、第20回目の節目

11月16日（主）に第20回信徒の集いが西部地方会信徒部の主催により神戸教会堂で開催された。他の地方会に先駆け2003年11月に第1回の全信徒合同の集会を始めたが、今回で20回目の記念の大会となった。7教会64名が参加した（壮年会28名、女性会25名、青年会8名、子ども3名）。関西地方会からも会長の金鍾權牧師（平野教会）、副会長の吉井秀夫長老（京都教会）をはじめ7名の方々に参加いただいた。

第1部の開会礼拝は、西部地方会壮年会会長の梁昌熙長老（武庫川教会）の司会で進められ、信徒部長の李重載牧師（川西教会）による「感謝する信仰が神の栄光を輝かせる」（詩編50: 23）というメッセージがあった。席上献金は明石教会修繕のために捧げられた。

第2部では証しの時間が持たれた。青年会の福田峻大信徒（川西教会）は“どのようにして信仰に導かれたか？”、女性会の崔美恵子長老（武庫川教会）は“神を喜び楽しむ”、壮年会の尹聖哲長老（神戸教会）は“両親が子どもたちに教える言葉は？”というテーマで、それぞれ感銘深い証しをした。

その後、分団に分かれて、「信仰の証しと継承」というテーマで意見交換をした。今回は初の試みとして子どもの分団も持った。短い時間であったが、全世代の教友たちと顔を合わせて、それぞれの信仰を高めあう尊い時間となった。

（報告：林英宰）



＜年末年始業務案内＞

総会事務局は年末年始下記の期間業務を休業いたします。

《2025年12月24日～2026年1月6日》

祝・聖誕

- ・総会長：張慶泰牧師（船橋）
- ・副総会長：金明均牧師（名古屋）
- ・白承豪長老（神戸）
- ・書記：朴成均牧師（和歌山第一）
- ・副書記：林基明牧師（福岡）
- ・会計：吉井秀夫長老（京都）
- ・宣教委員長：李重載牧師（川西）
- ・教育委員長：蔡銀淑牧師（大垣）
- ・社会委員長：申容燮牧師（KCC）
- ・神学考試委員長：

朴栄子牧師（豊中第一復興）

- ・信徒委員長：尹鐘憲牧師（明石）
- ・憲法委員長：中江洋一牧師（広島）
- ・救済基金委員長：金勝正長老（豊橋）
- ・財政委員長：吉井秀夫長老（京都）
- ・全国教会女性連合会長：

宋福姬勤士（名古屋）

- ・平和統一議論準備委員長：
- 李明信牧師（大阪）
- ・憲法規則等改正検討委員長：
- 柳町功長老（横浜）
- ・力ナダ長老教会在日宣教100周年委員長：趙顯奎牧師（別府）
- ・総幹事：鄭守煥牧師（新居浜グレース）

**総幹事
書簡**

これからの教会を考える —日本基督教団四国教区「秋のシンポジウム」に参加して—

総幹事 鄭 守 煥

日本基督教団四国教区東予分区の主催で「秋の教会シンポジウム」を教団新居浜教会において、松谷信司さん（「キリスト新聞」編集長）を招き開催〔11月10日（月）〕した。主題は『教会の「のびしろ」再発見！』として、日本における教団・教派を問わず教会やキリスト教関係の学校や機関（新聞・出版）等が置かれている現状認識と危機意識を共有し、これからキリスト教会を共に考えるよい機会となった。対面、オンラインを含め30名が参加した。

講演で各教団・教派における兼務・代務率について以下のようないい数字が挙げられた。日本バプテスト連盟5/316教会（1.6%）。日本同盟基督教団9/252教会（36%）。日本基督教団201/1686教会（11.9%）。日本福音ルーテル教会47/134教会（35.1%）。日本聖公会113/316教会（35.8%）。〔データブック『神の広がりと深化のために』（FCCブックレット）2016年資料から〕。

教団には定年制がなく、また代務は後任牧師就任までの教役者派遣でKCCJにおける臨時堂会長に該当する。兼務は一人の教役者が二つ以上の教会を牧会することを意味する。日本バプテスト連盟においては信徒が訓練を受け、教会が認め立てた教役者（信徒教師）がいるために兼務・代務の比率が低いようである。更に全国のプロテスタント教会で見ると、約7700（2018年）ある教会で無牧の教会は兼務・代務を含めると1124教会（14.5%）となっていて増加傾向にある。そこには既存の教会制度が疲労していること。具体的に言えば、少子高齢化の中で牧師が不足し組織率が低下していること。1教会1牧師というモデルの限界が来ていること。教勢の低迷による「内向き」志向になっていて危機意識の希薄さに加え、コロナ禍以後の特定の教会に所属しない「教会難民」の増加等に原因があるという指摘であった。

コロナ以後における可能性と現状の教会の“弱み”に目を向け“弱み”を“のびしろ”に転換していく必要がある。まずはコロナ以後のオンライン化が拓いた可能性である。オンラインを通して見ず知らずの人が通りがかりにのぞき見（入退出）できるメリットである。礼拝や牧師のありのままの姿を配信でき、普段教会の前を歩いている人も、教会の中を見たこともなければ意を決して入ろうとするかもしれない人でも、のぞき見できる機会を提供できる。それは教会に設置されている掲示板の内容にも言えることで、教会員以外に見てもらうことを意識し、キリスト教会用語を多用せず分かりやすく必要な内容（例：礼拝開始時間と終了時間を明記する等）に改めていくことはすぐにでもできることである。またオンラインを通して他教派、他教会から学ぶ好機もあり、「信じる」つもりはないが「（キリスト教を）知りたい」層へのアプローチとして、押し付けることなく信用を得られる手段としてオンラインを活用し教会の門を開き、敷居を低くしていくこと

が求められている。

だがオンライン配信を実施するのは、同時に教会の“弱み”的部分もある。少子高齢化によって地方教会では、オンライン配信をするための知識や財政力が不足しがちである。また（社会との）世代間ギャップや内向き志向で地域での存在感が薄い。また教会ならではの閉鎖性、同質性を求める指向、専門用語を多用する傾向を変えていかなければいけない。また子育て世代は共働きで日曜日の午前中という特定の時間と空間に縛られることへのハードルの高さと、来会者への受付時における個人情報を聞き出させることへの抵抗感。更には「信じるか信じないか」の二分法的な思考は、「（キリスト教を）知りたい」層に大きな壁を作る原因となっている。特定の宗教や団体に染まりたくはないが孤立することの不安を持つ人々は相談相手として教会よりもチャットGPTに頼り、結果として教会を敬遠することになっている。

ではこれからの教会が、“弱み”を“のびしろ”に転換するために組織として共同体として、どう変わっていくべきなのか。人数が少ないと、関係性が深く即対応が可能である。また催事が少ないと、継続できる関係性や営みを作りやすいこと。そして一教会でできないことは近隣教会や業者・行政との協力関係を築くことで、地域と近隣住民を深めていくことができる。そのためには教会施設（会堂や牧師館等）を活用していくこと。高齢者がいることは、記憶と語りが地域の知的財産としてとらえることも可能である。そのためには教団や教区（地方会）は、兼牧・複数教会を前提にした体制づくりを整え、オンライン配信の環境整備や設備設置の財政的支援。人的財産の有効活用。教役者・教会員向けのハラスマント研修の実施と健全な共同体づくりのための意識改革が必要である。

更に教会として独裁・権威的な体制から対等・平等・民主的な組織づくりと、多様性を認め意見を言えあえる雰囲気と、情報開示と自由に教会を出入りできるよう努めていく必要がある。そのためには教会が来会者を囲い込まずハードルを下げ、信者ではなく教会のファンを増やしていくための情報を発信し知名度を上げ自教会の強みを捉え直し、地域の特性と困りごとに目を向けて積極的に需要に応えていくことが求められている。個人においても教会外の人脈や信頼関係を平素から構築し、他教派、他教会とも関係を保ち見分を広め異論を排除しないオープンなマインドを養っていく。

今回の講演からKCCJ総会においてもできることから地道に取り組む価値は十分にあると感じた。



韓日対照讃頌歌販売



韓国の新讃頌歌版です。交読文も韓日対照で掲載されています。
●B6版変型・1483ページ
●価格：2,500円
（消費税・送料込み）
※お求めは総会事務所へ

韓日対照聖書販売



各ページの左に韓国語（改革改正訳）、右に日本語（新共同訳）が掲載されています。
●A5版変型・1760ページ、革製
●価格：4,000円（消費税・送料込）
※お求めは総会事務所へ